

TRIAL HLDGS

リテールAIでお買い物体験が変わる

トライアルだからこそ実現できる最先端のリテールDX

トライアルは「ITの力で流通を変える」を目標に掲げ、
さまざまなテクノロジーを用いて、
お客様により良いお買い物体験を提供できるよう努めています。
40年来変わらぬ姿勢です。

データとIoTを駆使する力

①リテールDX (Smart Store®) 事業

Retail Ai

小売業向けIoTデバイスの開発や
サプライチェーンにおける
各種ソリューションの提供

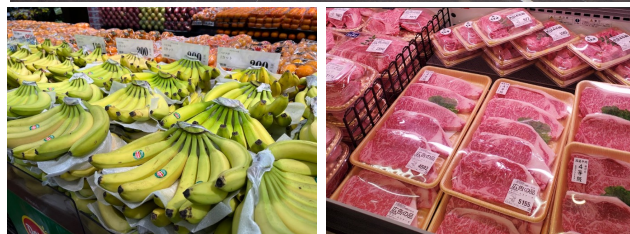


効率化された店舗網でモノを流通させる力

②流通小売事業

TRIAL

食品を中心とした総合品揃え型の
ディスカウントストア店舗の運営



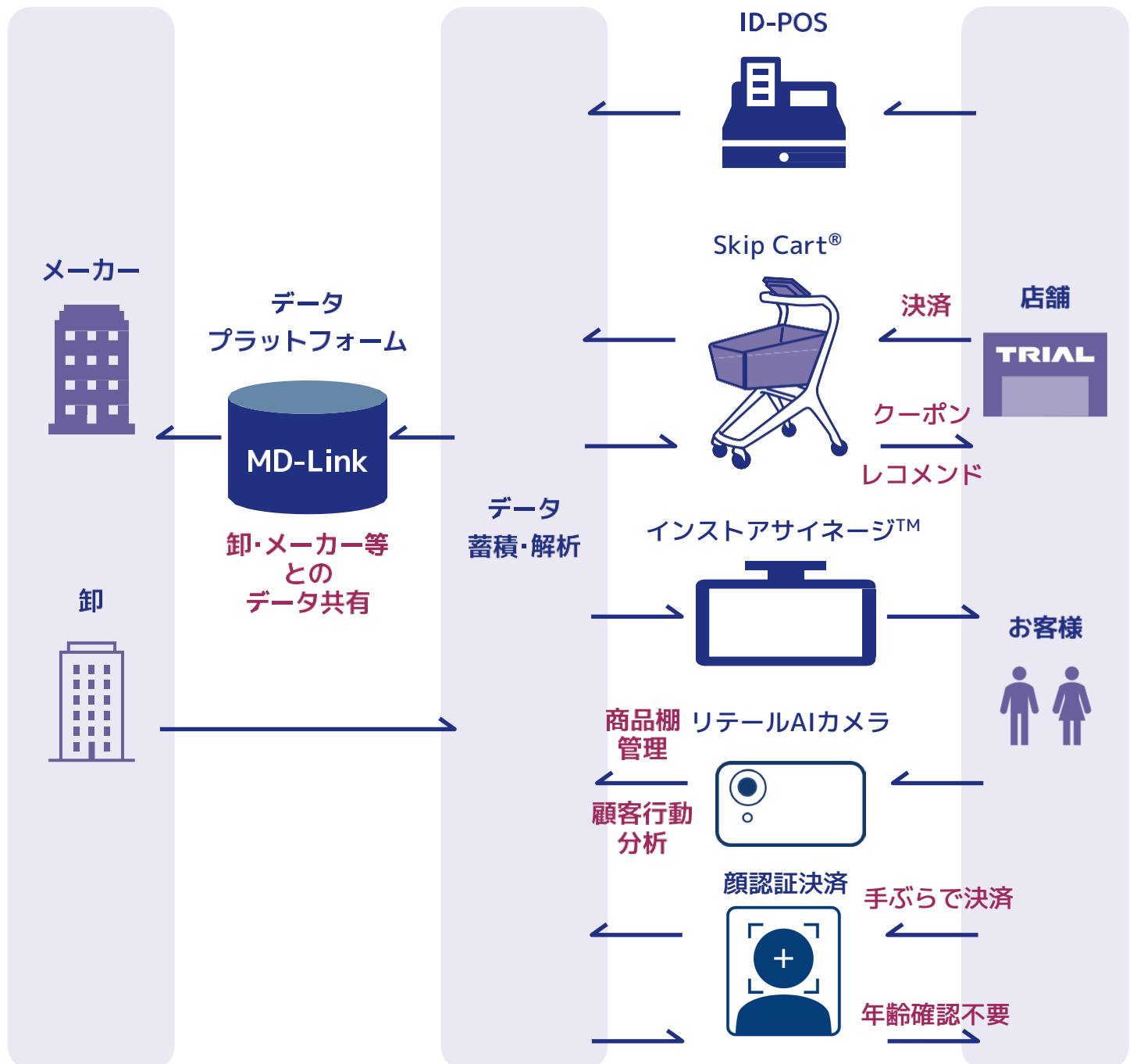
売上高
6,531
億円
(2023年6月期)

店舗数
287
店舗
(2023年7月末時点)

スマートストア数
186
店舗
(2023年7月期)

トライアルのSmart Store[®] ①

データを収集・蓄積・解析・共有することで売場の最適化やお客様への新しいお買い物体験の提供を行っています。

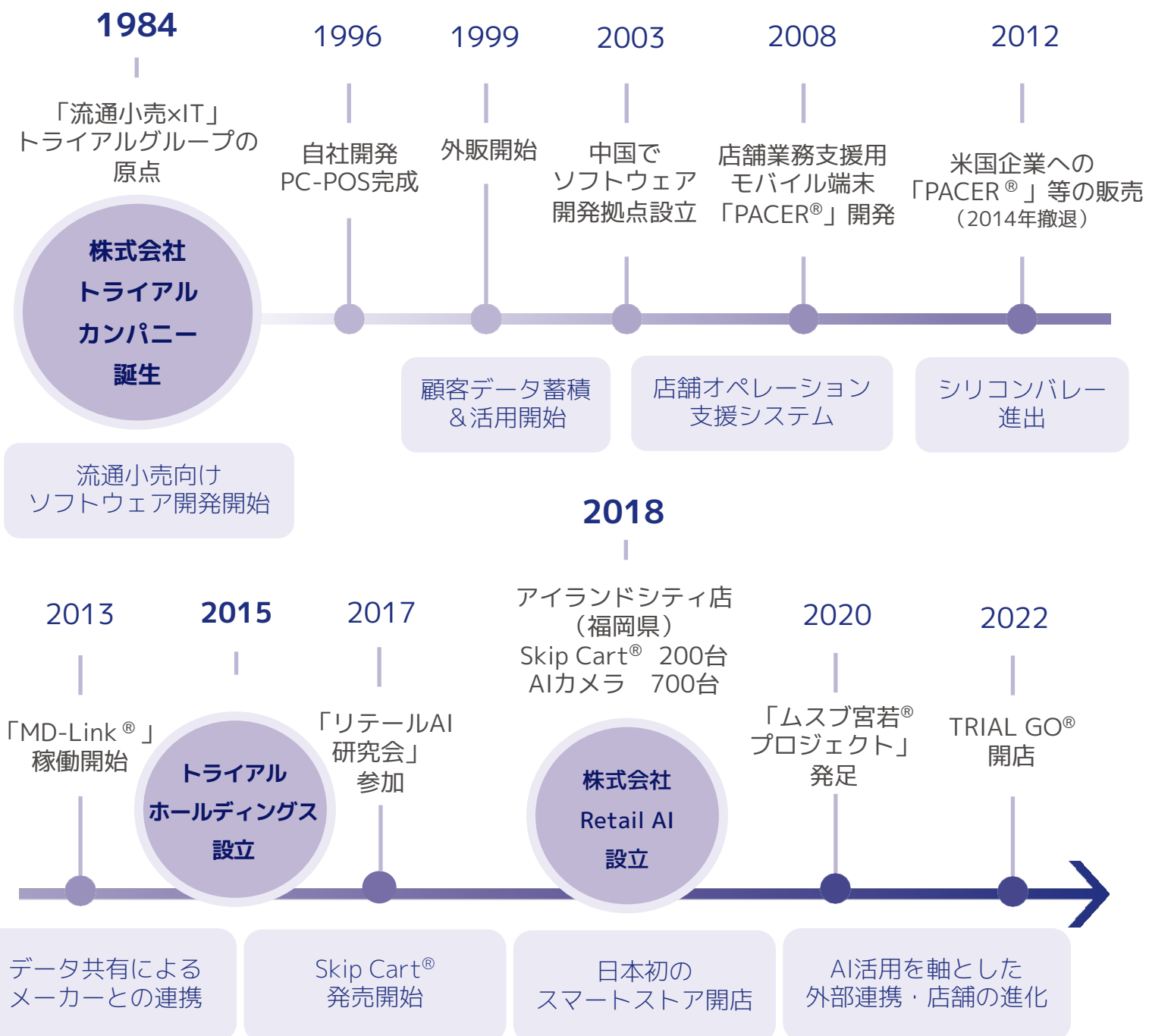


トライアルのSmart Store[®] ②

なぜ小売企業であるトライアルに データ活用やIT機器の開発が可能なのか？

トライアルが「リテールDX」を行えるのは、祖業のひとつのITがあり、長年にわたってIT投資を続けているからです。

シリコンバレーに拠点を構え、自社開発の店舗業務支援用モバイル端末「PACER[®]」などのプロダクトを米小売企業に販売していたこともありましたが（撤退済み）。このように積極的な「流通小売×IT」の歴史が、トライアルの強みであり個性です。



Quick Facts

Skip Cart® (スキップカート)

スキャン漏れ防止

センサーによるスキャン漏れ防止機能搭載



タブレット

スキャン済みの商品データ（商品名、値段、個数）や合計金額を表示
お客様の購買情報等に合わせて
レコメンドやクーポンを表示

着脱式バーコード スキャナー

重い・大きい商品を持ち上げ、簡単にバーコードのスキャンが可能

一体型バーコード スキャナー

商品スキャン、決済等で利用
スキャン後そのまま収納部へ商品入れることで
シームレスなお買い物体験が可能

収納部

まとめ買いにも対応可能な
大容量デザイン
センサーによるスキャン漏れ防止機能搭載



トライアル専用の
プリペイドカードをスキャンし
会員情報をカート登録



商品のバーコードを
リーダーにかざしてスキャンし
商品をカゴに入れる



Skip Cart®専用の
決済ゲートを通過し
自動発行のレシートを受け取る

導入店舗



208店舗

導入台数



19,401台

マンスリー
ユーザー



407万人

利用率



25.7%

来店頻度
向上



6.3% ↑

利用者年代構成
2人に1人は50歳以上
シニア層は36%



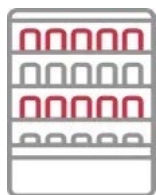
57%

※2023/9/25-2/23/10/1までの
9:00-21:00の稼働時間での利用率

2023年12月末時点

Quick Facts

AIカメラ



棚割を最適化



万引きの防止



在庫の売れ残りや
廃棄ロスを削減



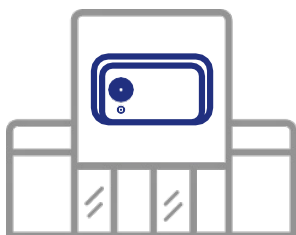
顧客行動分析により
売り場のレイアウトや
陳列内容を改善

商品の
陳列状況
確認

顧客行動
分析

店舗内
マーケティング

店舗数



38店舗

導入数



約2,300台

機器導入で変わる店舗運営①

1. お客様と商品のマッチング精度向上

お客様が情報を得る媒体の変化や、お客様のニーズの多様化などのため、従来のマーケティング手法だけでは、お客様と商品とのマッチングが難しい状況です。その解決にも、Retail AIが力を発揮します。データに基づく売場の改善やパーソナライズされた情報の発信が可能です。

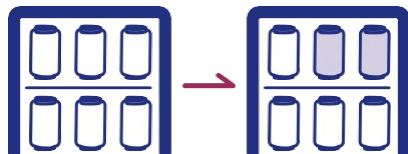


お客様が情報を得る媒体の変化や、お客様のニーズの多様化への対応

利用者の属性情報や閲覧・購入履歴をもとにした、ECのマーケティング

2. IoT機器・ID-POSデータ等を活用し、“欲しいものが見つかる”売場に

棚割改善



お客様の棚前行動を分析したデータ等をもとに、棚割（品揃えや陳列方法）を最適化

レコメンド・クーポン配信



お客様の属性情報や購買履歴、Skip Cart®でスキャンした商品情報などをもとに商品のおすすめやお得なクーポンを配信

3. コスト削減、省人化によるリソース再配分

スキップカートやリテールAIカメラの導入により、限られた人員での店舗運営が可能になります。これにより、経費や人員などのリソースをより生産性の高い部門に再配分し、「お客様に良い商品を安く提供する」ことをさらに推し進められます。

従来の業務(一例)

レジ打ち
目視での
売場確認



コスト削減

省人化

リテールAIの技術導入

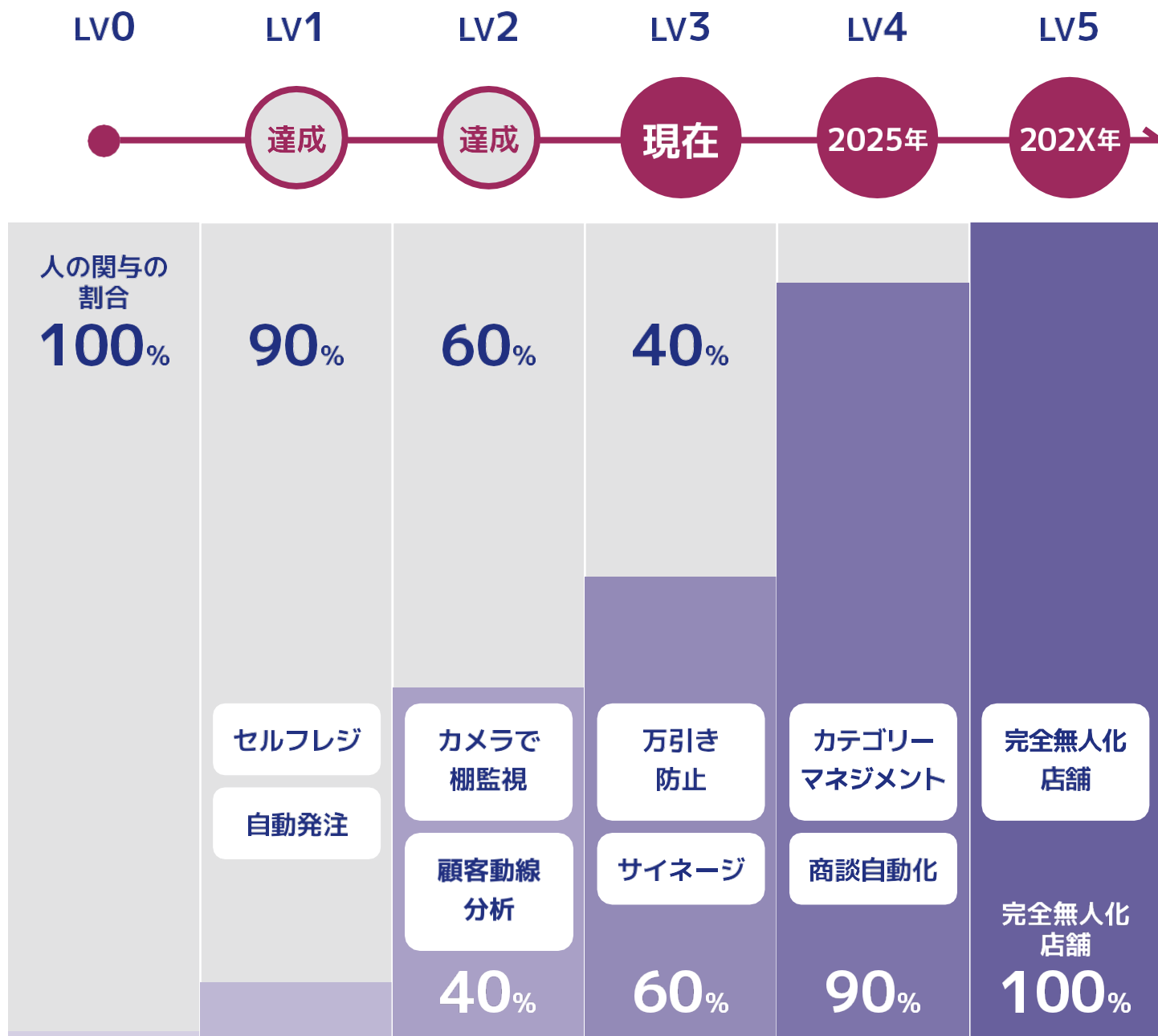
リソース再配分で
生産性UP



リテールAIレベル5への道

トリアルは、リテールAI技術を用いることによって、
限られた人員でも効率的な店舗運営が行えるようにし、

「安くて良い品を、お客様が満足して購入いただける仕組み作り」を進めています。
店舗オペレーションにおけるリテールAI技術の適用範囲は、段階的に着実に広がっています。



“日本初”リテールDX開発拠点

リモートワークタウン ムスブ宮若®

宮若市では複数の研究開発施設と店舗＝実証実験の場が近接して存在します。
この立地上の好条件により、わたしたちのリテールDXの取り組みは
より高速にPDCAを回していくことが可能になります。

TRIALGO® 脇田店

日本最先端の
Smart Store®



MEDIA BASE

Smart Store®
メディアコンテンツ作成



MUSUBUAI™ AI開発センター

購買行動/データ分析



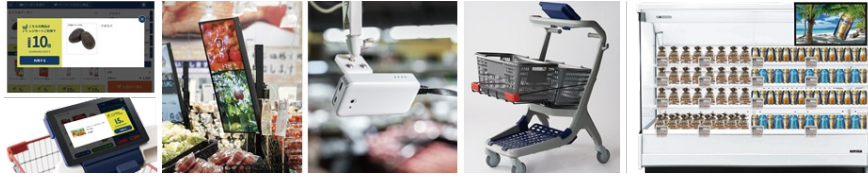
TRIAL IoT LAB

IoT開発センター



SuC 宮田店

POC/データ取得



ムスブ宮若各施設紹介



TRIAL IoT LAB

旧宮田西中学校の校舎をリノベーション。最先端のIoT技術の開発、高度化を図る場所として、デバイス開発センターの機能を備えています。今後はトライアルとお取引のあるメーカーのエンジニアメンバーも招聘しSkip Cart®をはじめ、リテールの技術革新を進めて流通革命を起こす拠点となっていきます。



MUSUBU AI™

旧吉川小学校の校舎をリノベーション。AI研究開発者が自由かつ快適に研究開発に打ち込める環境を整えました。また、サテライトオフィスやプロジェクトルームを備えることで日本中のみならず世界中と繋ぎ、距離による障壁をなくしております。首都圏と世界を繋ぐ、技術開発の強力な地場となっています。今後は“知のオープン化”、教育機関と連携した将来の種撒きを行う施設として活用いたします。



MEDIA BASE

旧笠松小学校の校舎をリノベーション。ショッピングマーケティング実現のため、店頭のアナログサイネージTMで放映したりSNSで使用したりするコンテンツの作成や、情報発信をおこなう基地です。

最先端スマートストア紹介

TRIAL GO®

省人化と出店まで時間のかからない位置づけとなるTRIAL GO®。
実験を重ねていくことで店舗の省人化などの取り組みを強化していきます。

TRIAL GO®脇田店

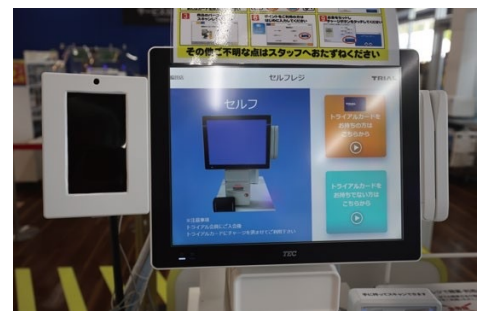


商品のスキャン漏れを防止する
自動検知アラーム装置搭載の
次世代型Skip Cart®

TRIAL GO®今泉2丁目店



“世界初”カメラと電子棚札が
連動する「自動値下げ」



日本初酒販売の年齢確認不要
とする24時間顔認証決済

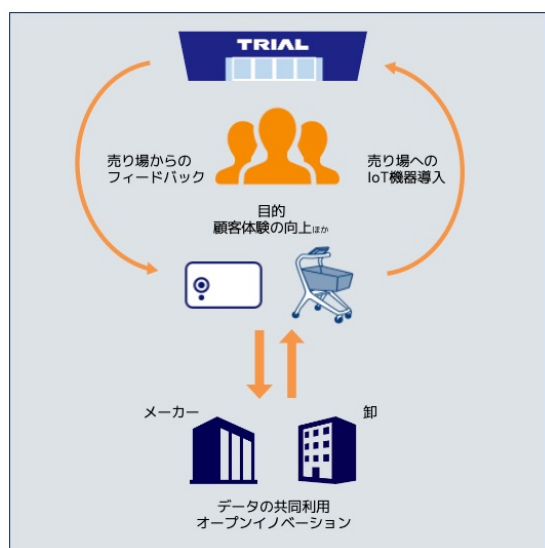
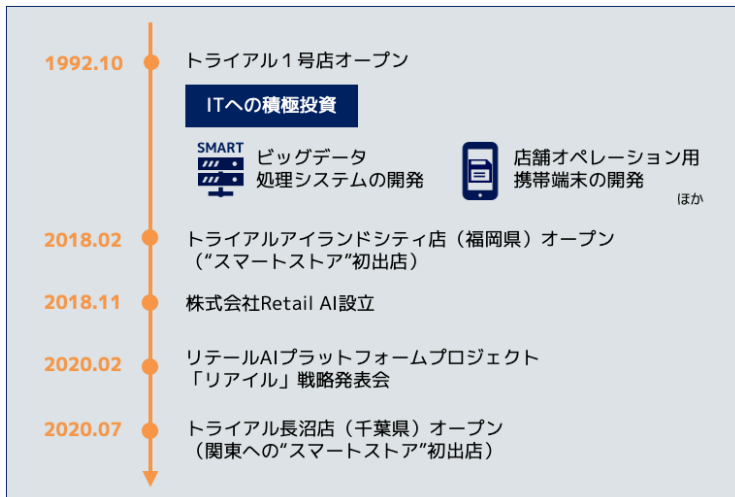
トライアルのAIは“店頭”で進化する

Retail AI代表からのメッセージ 永田洋幸メッセージ

トライアルグループは長年、流通業界のDX（デジタルトランスフォーメーション）に取り組んできました。

“優れたテクノロジーが世界を変える”と思われがちですが、新型コロナウイルス感染症をはじめ、様々な社会課題をテクノロジーそのものが解決することはできません。現場で実際に活用されて初めて、技術やデータは価値を持ちます。

現時点で、Skip CartやAIカメラといったIoT機器を数千台規模で運用している小売企業は、世界でも我々だけだと自負しています。



実店舗で実証実験を行うことで知見が蓄積され、その知見が更なる技術向上を実現し、新しい技術がまた店舗に導入される—小売部門とIT部門が一体となって「流通情報革命」を目指す、トライアルグループならではの好循環です。メーカーや卸の皆さんと協働で、オープンイノベーション（組織の垣根を越えて知見や技術を持ち寄りビジネスの革新を図ること）も進めています。

EC（電子商取引）業界王者であるAmazon.comもAIを用いたショッピングカートを実店舗に投入しています。先行企業としてわたしたちの実績やビジネスの方向性の正しさについて自信を新たにしているところです。

わたしたちはITのちからで、流通業界に存在している年間約40兆円のムダ・ムラ・ムリの削減に継続して挑むとともに、お客様により良いお買い物体験をご提供し、「生活必需品—なくてはならないお店」であり続けるよう邁進します。

株式会社Retail AI(東京都港区)
代表取締役CEO 永田 洋幸

トライアルグループの技術開発を主導



Keywords

リテールAI

AIを用いた小売業のDX（デジタルトランスフォーメーション）。小売業のさまざまな工程（決済、販売促進、在庫管理、発注など）にAIを導入しビジネスの変革を図ること。一般的に使用されることが多い「リテールテック」（小売業に情報技術を導入すること）に対し、より「AI活用」を強調している。

#小売 #AI #DX

Skip Cart®

トライアルグループが開発した、タブレットとバーコードリーダーを搭載したセルフレジ機能付きの買い物カート。トライアル専用のプリペイドカード、もしくはアプリをスキャンすることでカートが使用できるようになり、お客様は商品のバーコードをスキャンしながらお買い物を進める。専用ゲートを通過する際にプリペイドカードやアプリのチャージ額からお買い上げ額が引かれ、レジ待ちをすることなくキャッシュレス決済が完了する。登録されたお客様の属性や購買履歴等のデータに基づき、クーポン・レシピの配信やレコメンド（商品のおすすめ）を行う、ショッパーマーケティング（商品の消費者ではなく、商品の購入者に対する販売促進活動）のツールでもある。一部の店舗などにおいては「レジカート」の愛称が使用されている場合もある。

#レジレス #キャッシュレス #ショッパーマーケティング #リテールメディア

リテールAIカメラ

トライアルグループが開発した、小売店での使用に特化したAIエンジン搭載カメラ。将来的な無人店舗経営に向けた省人化・ローコストオペレーションを次のレベルへ引き上げていくための取り組み。一例として、TRIAL GO®に設置されたAIカメラは売り場の電子棚札と連動し、AIが20%値引きや半額といった値下げを行い電子棚札の表示を変更。弁当類の売れ行きを踏まえてAIが売れ残りを判断。商品に貼付された値札は変わらないが、バーコードの情報が変更されているため、リーダーで読み取ると値下げが反映される。また、お客様のプライバシーに配慮した形で、「棚前で立ち止まったか、商品に注目したか、商品を手にとったか」を分析。その結果をもとに、売り場のレイアウトや棚割りの最適化に役立っている。

#動線分析 #人流解析 #売場の最適化

MD-Link®

店舗運営に伴い蓄積されるビッグデータ（在庫情報、購入利益、個人を特定しない顧客属性情報など）を取引メーカーや卸と共有するためのシステム基盤（トライアルグループが開発）。メーカーや卸は同システムを介してデータ抽出や分析をおこなえるほか、トライアル側からデータ活用のコンサルティングを受けることも可能。

#ビッグデータ

オペレーション・ドリブン

現場での実務を基点として、機器やサービスを設計運用したり、意思決定をおこなったりする業務プロセスの在り方。例えば、現場の実情に即さないテクノロジーの過剰な高度化を避けるため、トライアルグループではIoT機器の開発を「オペレーション・ドリブン」で一店頭での実際の運用を通じて得られた知見や課題、データをもとにおこなっている。

お問い合わせ

メディアの方からのお問合せ先

株式会社トライアルホールディングス

TRIAL HLDGS

<https://trial-holdings.inc/contact/>



小売・卸・メーカーなどの方からのSkip Cart®やAIカメラについて
のお問合せ先

株式会社Retail AI

Retail Ai

<https://www.retail-ai.jp/contact/>



Gallery

Skip Cart®、リテールAIカメラ、
店舗外観、永田洋幸(Retail AI社)の
画像をダウンロードいただけるWEB
サイトです。
これらの画像は、メディアの方が記
事作成をされる際、事前の申請無く
使用することができます。



「利用規約」を必ずお読みください。

<https://trial-holdings.inc/news/media/>